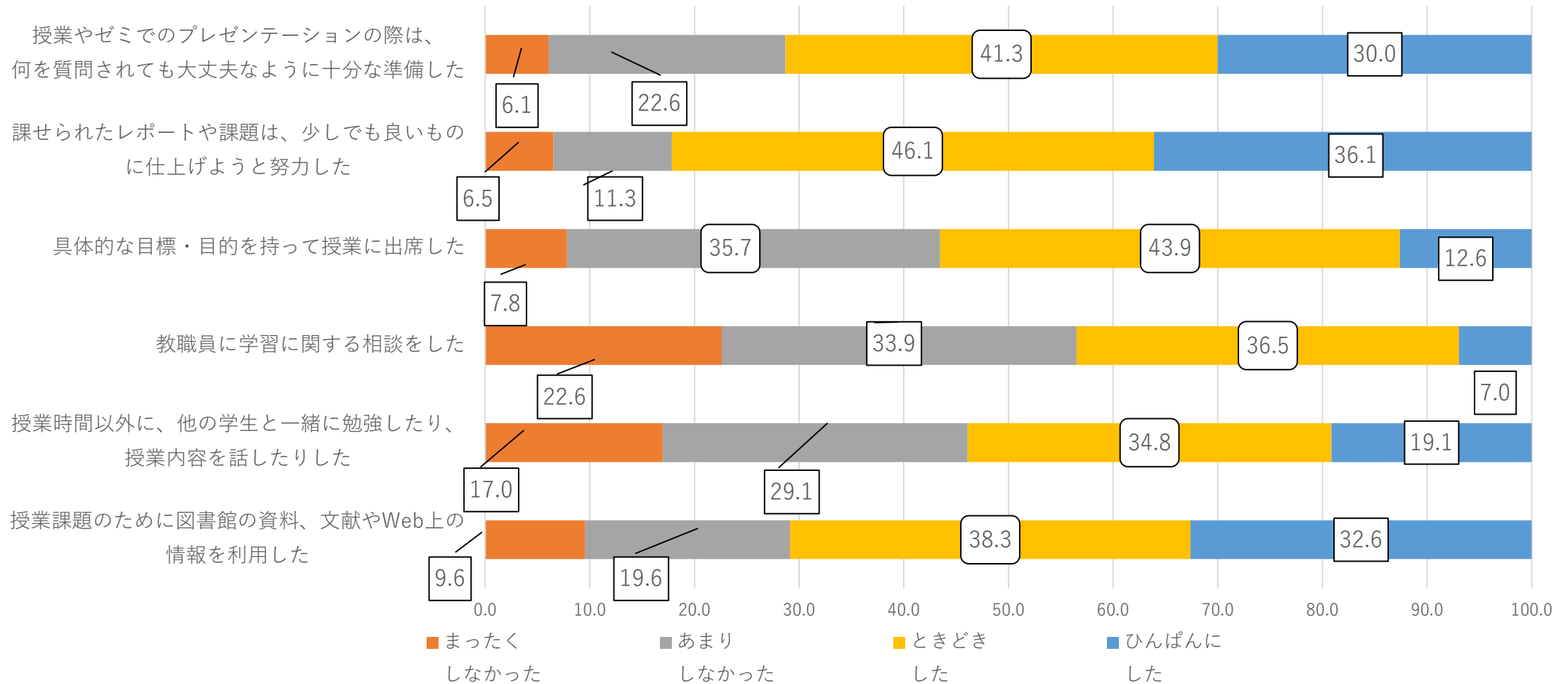


2023年度卒業時アンケート

総合政策学部

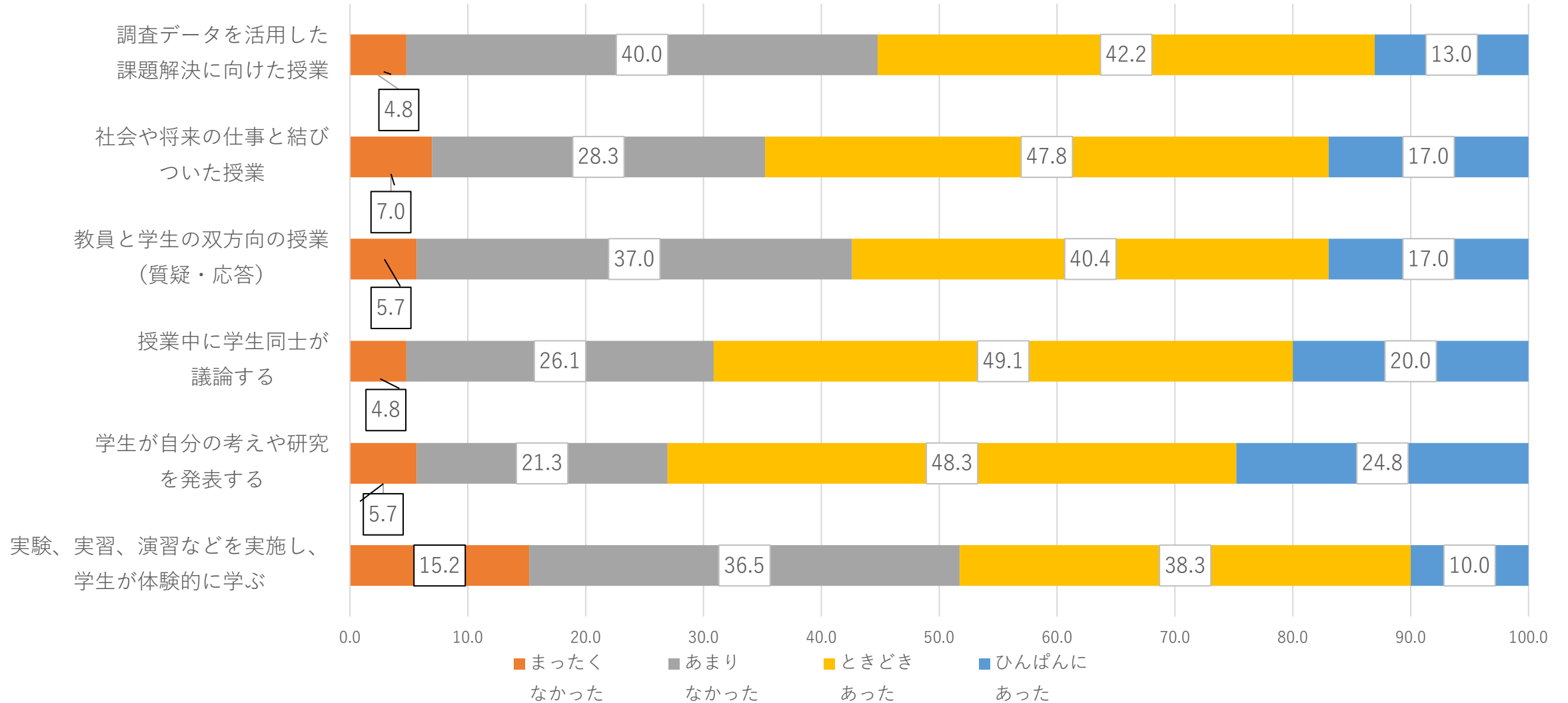
学習態度・行動

単位：％



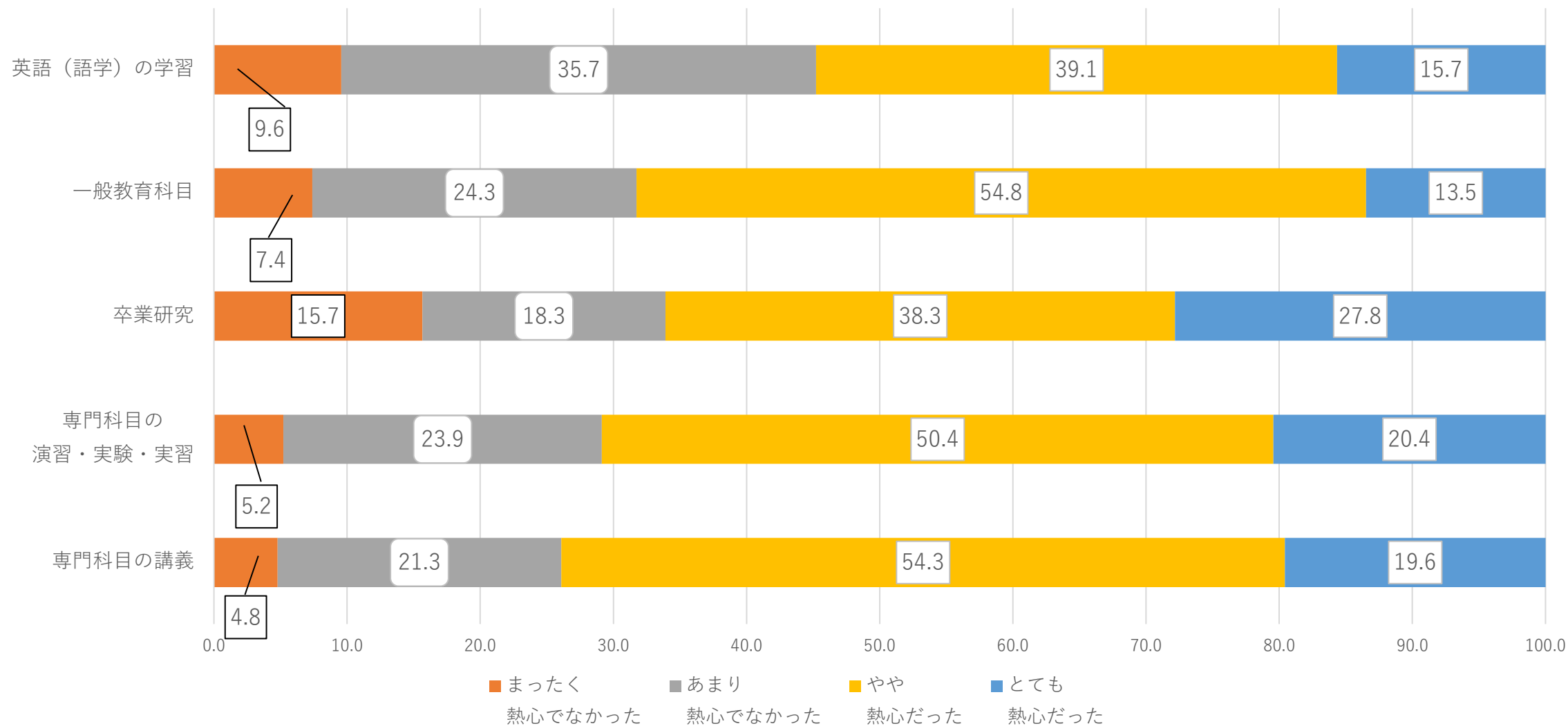
学習経験・機会

単位：％



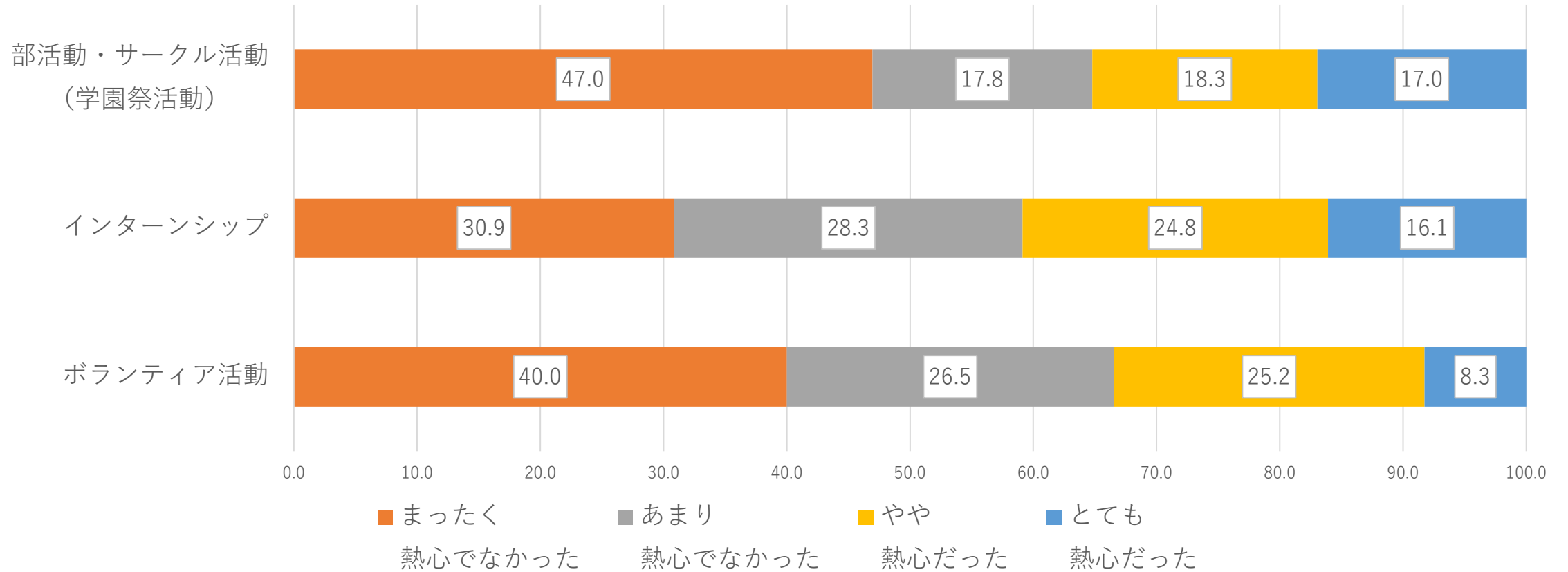
正課教育 学習意欲

単位：％



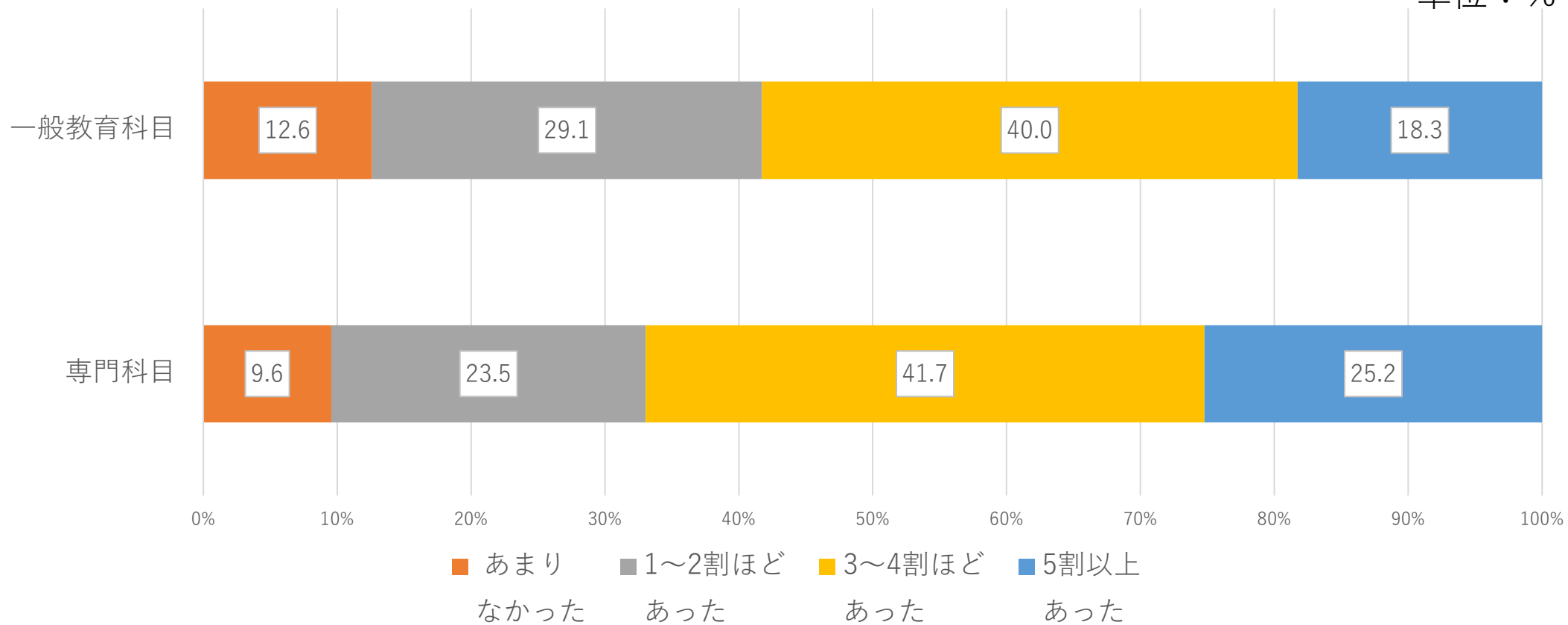
正課外活動の意欲

単位：％



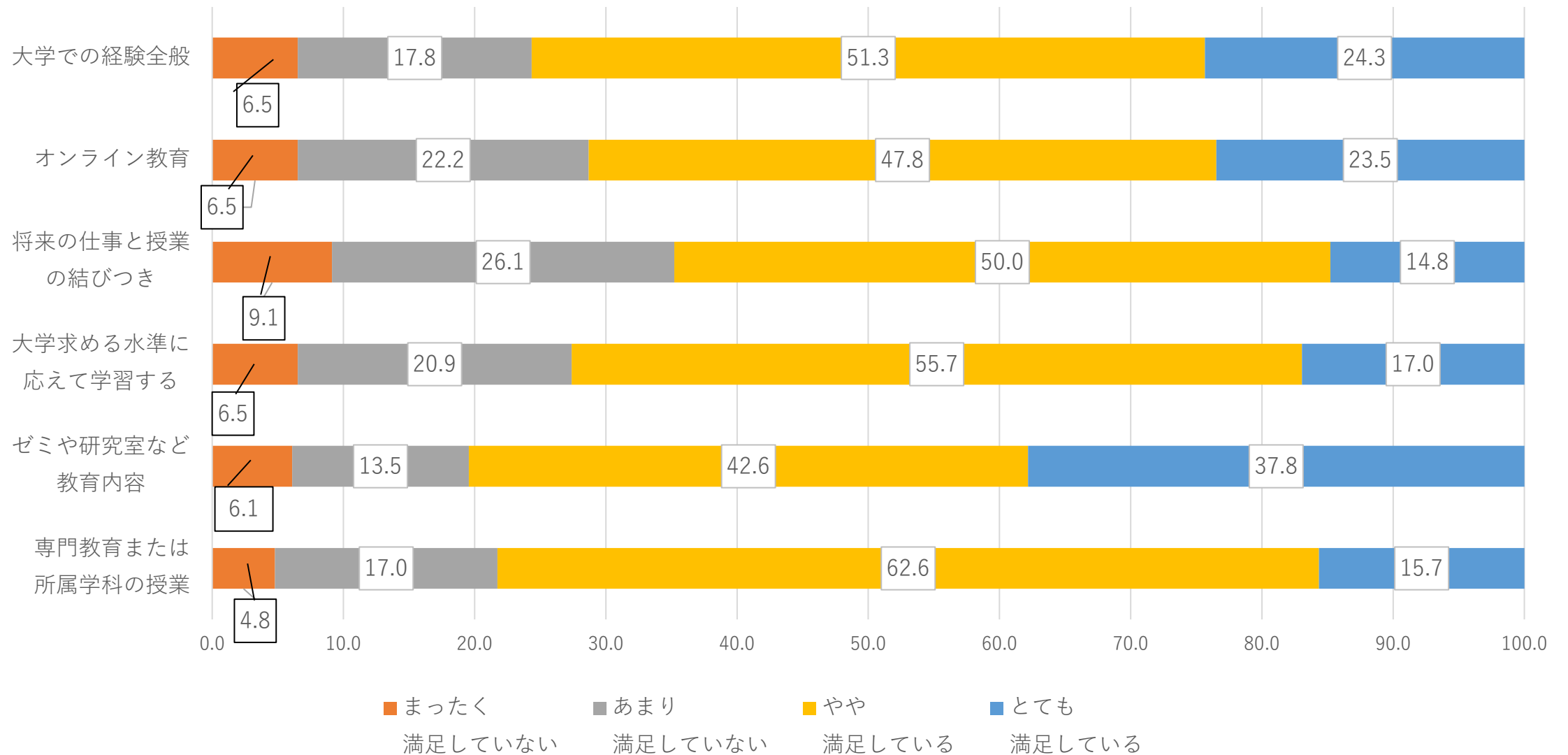
一般教育科目・専門科目の興味・関心

単位：％



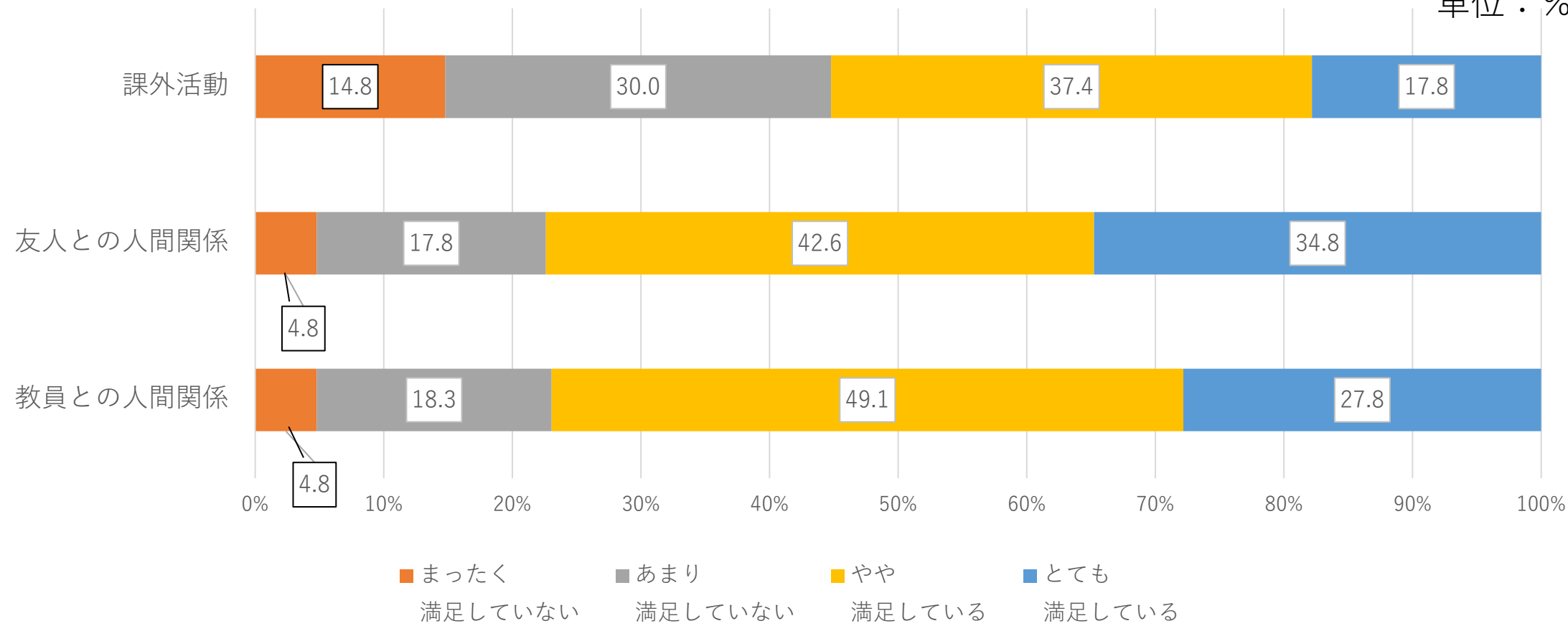
教育内容 満足度

単位：％



人間関係・部活動 満足度

単位：％



社会性・学びの継続

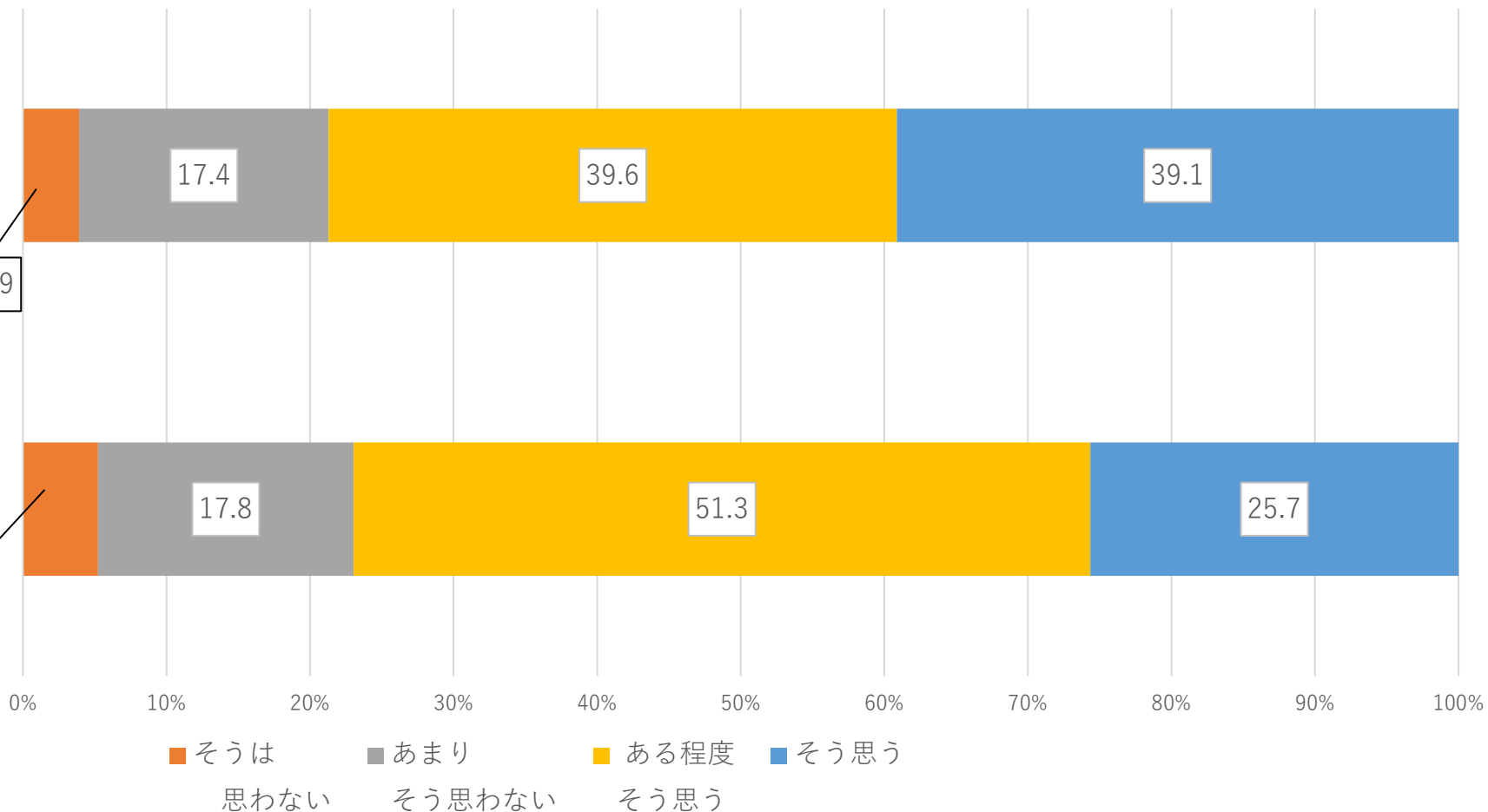
単位：％

卒業後も主体的に学び続ける
ことの大切さを感じている

3.9

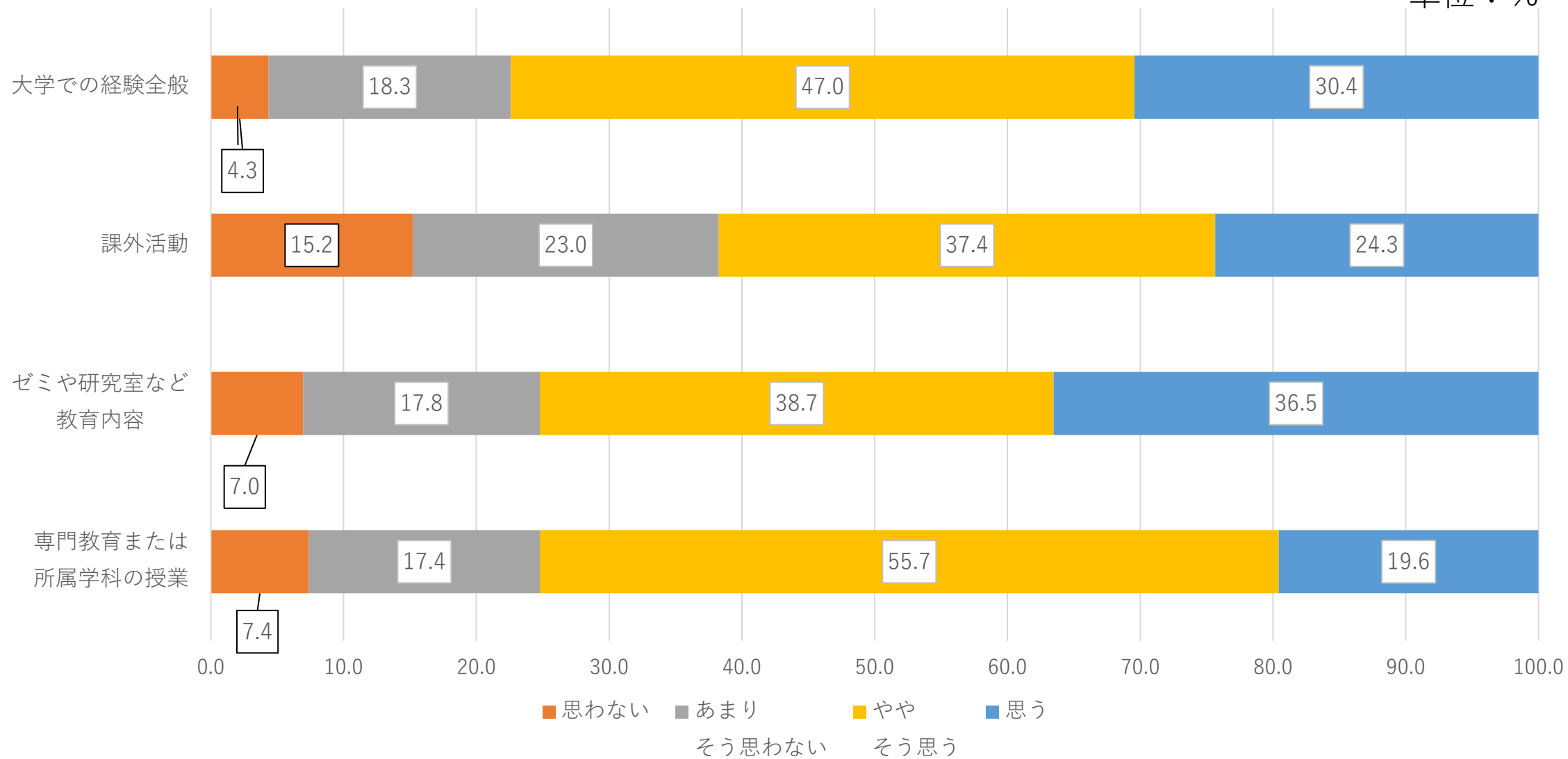
大学での学びを通じて社会に
対する理解が深まった

5.2



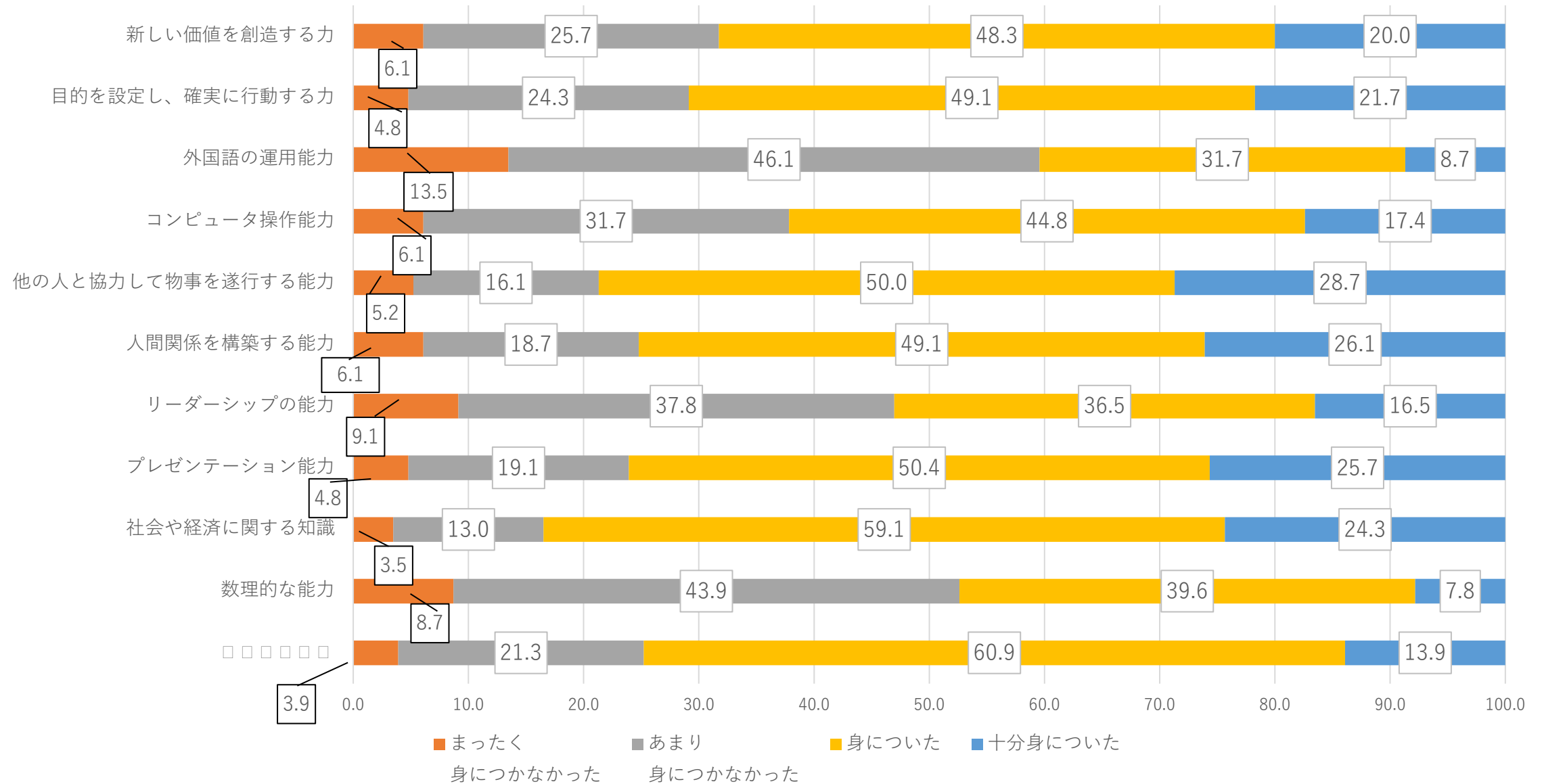
成長実感

単位：％

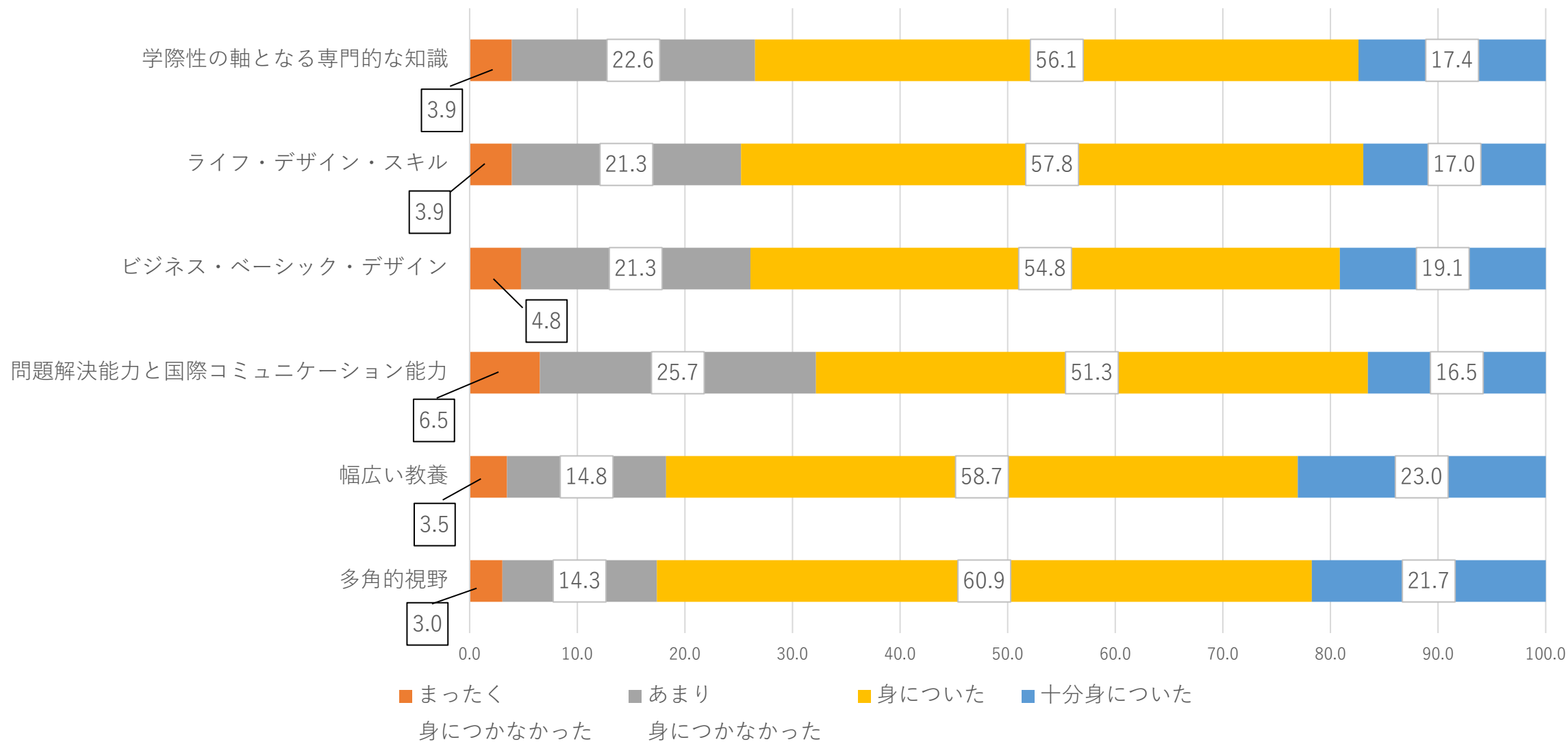


卒業時の知識・能力

単位：％



【総合政策学部】 デイプロマ・ポリシーに定められた能力 単位：%



総評：総合政策学部

本年度の卒業生は、入学時よりコロナウイルス感染症の影響を受けており、プレゼミナールを始め多くの授業科目が遠隔での受講（オンライン・オンデマンドなど）となった。課外活動の満足度が55.2%となり、前年度（62.5%【以下（ ）内同じ】）に比べて7ポイント近く下がっている。

友人との人間関係では、77.4%と前年比6ポイント減（83.6%）、教員との人間関係では、76.9%と8ポイント減（77.7%）となっており、遠隔授業中心となった大学生活を反映していると思料する。ただし、オンライン教育の満足度を見ると、71.3%（67.7%）で3.6ポイント上昇している。入学当初より遠隔授業が「当たり前」となっていた、当該年度の学生に特有なものなのか、次年度以降の卒業生の満足度との比較を待ちたい。

ディプロマ・ポリシーに定められた能力については、すべての項目で前年を下回る結果となった。個別に見ると、「多角的視野」が82.6%（88.3%）、「幅広い教養」が81.7%（88.8%）、「問題解決能力と国際的なコミュニケーション能力」67.8%（78.8%）、「ビジネスベーシックデザイン」73.9%（81.8%）、「ライフデザインスキル」74.8%（78.2%）、「学際性の軸となる専門的な知識」は73.5%（81.7%）とあり、「問題解決能力と国際的なコミュニケーション能力」が11ポイント、「ビジネスベーシックデザイン」7.9ポイントと減少幅が大きい。コロナ禍による海外留学の中止、キャリア関連講義の対面での実施が減少したことが背景に存すると推定される。

専門科目への興味・関心について、33.1%（36.4%）と3.3ポイント減少しているものの、依然として3割近い卒業生が2割以下の関心であった点については慚愧に堪えない。3人に1人の学生が、専門科目に関心が持てずに卒業していく現状は憂慮すべきである。

成長実感について、「専門教育または所属学科の授業」が75.3%（77%）と1.7ポイント減、「ゼミや研究室内容」が75.2%（79.9%）と4.7ポイント減となっていることから、講義やゼミ運営を再度検証し、改善に務めることが求められる。

冒頭でも述べたように、コロナ禍により遠隔授業が大半で、登校することさえまならなかった学年であった。かかる状況下であるにせよ、多くの項目で前年比減となったアンケート結果は重い。拳拳服膺して教育活動に臨んでいきたい。